

(様式第1号)

平成27年度 第2回芦屋市放課後子どもプラン運営委員会 会議録

日 時	平成27年10月22日(木) 15:00~17:00
場 所	北館4階 教育委員会室
出席者	委員長 中田 伊都子 副委員長 金本 ひとみ 委員 中上 二郎 委員 成田 直美 委員 守上 三奈子 委員 平井 郁子 委員 佐々木 春美 委員 荒谷 芳生 委員 田中 徹
欠席者	委員 伊田 義信 委員 中村 美津子 委員 桐村 廣子 委員 和泉 みどり
事務局	社会教育部長 中村 尚代 生涯学習課長 長岡 一美 生涯学習課 宇田 明日香 生涯学習課 松本 かづみ 青少年育成課 上田 裕之
会議の公表	■ 公 開
傍聴者数	0人

1 会議次第

- (1) 開会
- (2) 議題
  - ア 放課後子どもプラン保険内容について
  - イ 芦屋キッズスクエアについて
  - ウ その他
- (3) 第3回運営委員会開催の日程について
- (4) 閉会

2 提出資料

- ・ 校庭開放事業・教室型事業の保険内容について

- ・ あしやキッズスクエアの保険加入について
- ・ あしやキッズスクエア（放課後子ども教室）

### 3 審議内容

<中田委員長>

議題アの放課後子どもプラン保険内容について事務局より説明をお願いします。

<事務局：宇田>

（配布資料【資料1】【資料2】に基づき説明）

<事務局：上田>

キッズスクエアをスタートした時の補償内容は傷害と疾病でしたが、今後、様々な事態が想定できるため、11月26日から対物・対人に関しましても、1億円の保険に入るように手続きを進めています。もちろん、次年度も同様にさせていただきたいと思っています。

また、シルバー人材センターにお願いしている方については、シルバー人材センターの保険が適用されていましたが、スタッフに関してもキッズスクエア開始時は賠償責任保険に加入できていなかったため、児童と同様にスタッフの方にも11月26日から保険に加入し、万が一のことがあっても対応できるように進めているところです。

<中田委員長>

ありがとうございました。

保険は使わないことに越したことはありませんが、保険内容についてご質問はありますか。

<守上委員>

個人名を登録して保険に加入しているのでしょうか。

<事務局：上田>

基本的に保険の見積もりについては、平均の参加人数で積算しているため、個人の名前を使用することはありません。保険を適応する際には、個人名が必要となります。

<守上委員>

教育活動サポーターや教育活動推進員も同様でしょうか。

<事務局：上田>

登録していただいている方の人数を報告し、保険会社から見積もりを提出してもらっているため、個人の名前は使用していません。

<中上委員>

たとえば、災害・死亡保障で100万円の補償内容になっていますが、補償金額が低すぎませんか。

<田中委員>

保険の話なので、悪い話ばかりになってしまいますが、公園で遊んでいて亡くなってしまった場合は、各ご家庭で必要に応じて加入していただいている保険を適用していただくことになります。

キッズスクエアは基本的に、「子ども達に居場所を提供して自主的に遊んでもらう」のがねらいですので、参加していて、不幸なことが起こってしまった場合、お見舞い金程度のことはさせていただきたいとは考えておりますが、全額を補償するための保険ではありません。

賠償保険についても、基本的には市は市で市の事業に保険を加入しているため、市に直接責任があり賠償事故が発生してしまった場合、市の保険が適応されます。

キッズスクエアで11月26日から加入しようとしている賠償保険は、個人間で重大な過失があった場合や故意で何かをしてしまった場合の賠償責任になります。

保険といっても、少しずつ趣旨が違いますので、ご理解いただきたいと思います。

<中田委員長>

キッズスクエアの補償範囲の中で「祖父母宅へ毎日もしくは、決まった曜日に移動する場合は対象となりえない事がある」と記載されていますが、帰っている子は登録しておかないとダメなのでしょうか。

<事務局：上田>

そうです。基本的に、キッズスクエアに限らず学校も同様です。届出が認められていたら「帰宅」と認められると思います。本来の帰宅経路と異なる道で帰ってしまうと保険の適用が認められないことがあります。

<中田委員長>

例えば、お母さんの具合が悪く、たまたま祖父母の家に帰った時でも適用されないということですね。

<事務局：上田>

こちらの方では事情は把握できますが、本来の帰宅経路と異なる道で帰ってしまうと保険会社に申請した際に寄り道とみなされるケースもありますので、個々の事案に対して対応していくことになると思います。

帰宅経路の説明については、青少年育成課の方で、キッズスクエア登録時に保護者の方へきちんと伝えていく必要があると思っています。

<中田委員長>

毎日、祖父母宅へ帰宅している子どもは、キッズスクエアの登録を祖父母宅にしてい

るということですね。

<事務局：上田>

保険会社は「現住所」で判断することになるので、「現住所」と異なる場所へ帰宅されていると、チェックが入ってしまう可能性があります。

保険の適用の有無は、保険会社の判断となりますが、保険が適用されない場合があるかもしれません。

<中田委員長>

よく、「おばあちゃんの家に戻る」という子を見かけるので、そういう子どもさんは、担任の先生に報告されているのでしょうか。

<荒谷委員>

当然、学校の届出と違う場合は、報告されていると思いますが、それで保険が適用されるかどうかというところとわかりかねます。

<中田委員長>

普段より遠いところに帰っていると余計に心配になります。

<事務局：上田>

学校も幼稚園も「現住所」を申請しているので、「帰る場所」を申請しているシステムはあまりないように思います。

<中田委員長>

「帰る場所」を申請できれば、保険の適用ができるようにならないのかなと思います。

<事務局：上田>

キッズスクエアの場合は、帰宅が心配な子どもについては、保護者や祖父母の方が迎えに来ていただくようにお知らせしています。

<佐々木委員>

登録申請書に記入して納金されるのでしょうか。

<事務局：上田>

はい。

<佐々木委員>

登録申請書は芦屋市の方で作成されているのでしょうか。

<事務局：上田>

キッズスクエアは青少年育成課が作成しています。

<佐々木委員>

申請書の保管はキッズスクエアでされているのでしょうか。

<事務局：上田>

原本は青少年育成課，緊急の時に対応できるようにコピーをそれぞれのキッズスクエアの場所にも置いています。

<佐々木委員>

保険加入時に個人名は出さないといっても，実際にキッズスクエアに登録しているかどうかは，その申請書を見れば人数を把握できるということですね。

<事務局：上田>

見積もりの際に，実際の登録人数より少し多めの人数を申請しておかないと，虚偽の申請となってしまいますので，人数申請については，慎重に行っています。

10月に保険が改定になっていますので，現在の登録人数を保険会社には改めて報告しています。何度か人数の修正をして，よりの確な人数で保険の精算をします。

<中田委員長>

ありがとうございました。

議題イの芦屋キッズスクエアについて事務局より説明をお願いします。

<事務局：上田>

(プロジェクターと配布資料【資料3】を使用して，3つのキーワード

【①地域とつながる ②異年齢・異世代と交流 ③多様な体験】に基づき説明)

<中田委員長>

ありがとうございました。

映像を見せていただいたので，実際の様子がわかりやすかったです。

何かご質問等はございますか。

<中上委員>

ペタンクは鉄の玉を転がして重たいと思うのですが，子ども用のサイズはあるのでしょうか。

<成田委員>

山手小学校でペタンクをしているのですが，ペタンクはボールが3種類あり，正式な試合には出場できませんが子どもには一番小さな軽い種類を使用しています。

<佐々木委員>

すごく多様な取組を拝見させていただきました。

潮見小学校のように教室を貸していただけるということは、とても有り難いことだと思います。

部屋を見て思ったことは、教室の床は木でできているので、子どもに座布団を用意して下さっていて嬉しかったのですが、宿題をしたり、本を読んだりするのは、座布団だけでは足が痛くならないか心配になりました。

もし、可能であれば、教室の床一面にクッションのようなものをひくことができなにかと思いました。

今年3校でキッズスクエアがはじまり、現在、上田先生がコーディネートしてくれているので、色々なところから人材や活用できる物を発掘してくださっていると思います。

また、3校の中でも体験プログラムをコンビネーションしてプログラムを運営していくことや、次年度は3校さらに増え6校となっていく中で、各学校での特徴もあると思いますので、キッズスクエアの活用や運営、青少年育成課の支援などをシステム化しておかないと最終的には8校で実施されるわけですから、青少年育成課が大変になるように思いました。

#### <事務局：上田>

まず、潮見小学校の教室については、青少年育成課で改修させていただき、床の上にクッションフロアをひかせていただいております。

学校の事情によって、毎年使用できる部屋の状況が変わってしまうので、青少年育成課としては1つの部屋にお金をかけてしまうというのはできないので、子どもたちに少し窮屈な思いをさせてしまう部分があるかもしれません。

キッズスクエアの運営に携わっていただいている成田委員がいらっしゃいますが、山手小学校については、山手小学校が独自でペタンクや中国語、習字など地域の人材をフル活用していただき運営していただいております。

精道小学校に関しては、部屋が固定しておらず、金曜日のみ雨でも実施しておりますが、基本的に雨の場合キッズスクエアは中止になっております。

その状態で、学校や地域の方から「体験プログラムをしてほしい。」と要望をいただいておりますが、講師の方に雨で中止になってしまう状態で来てもらうというのは申し訳なくお願いできないので、精道小学校については、体験プログラムをほとんどできていない状態です。

ソーラーカーや落語、スナッグゴルフといった全市的に広めていきたいものについては、どうにか3校で実施できるように調整し、来月は消防体験を消防署に依頼し、3校にて実施を予定しております。

また、人材バンクとなるように、色々な方の連絡先をすべて登録制に移行しようと思っております。3校のマネージャー等に持っていただいて、マネージャーが最終的には「この曜日には、この人をお願いしたい。」と連絡ができるようなシステムを作っていきたいと考えています。

そのシステムに関しましては、学校等でもご活用いただけたらと思います。

現在は掘り起こしの段階なので、青少年育成課が入っていますが、できるだけ、マネージャーの地域の方やシルバー人材の方にも慣れていただいて、運営の大部分につ

いてはマネージャーを主に行っていただき、来年は朝日ヶ丘小学校・宮川小学校・浜風小学校で色々な体験プログラムを実施できるようにしていきたいとおもっております。

また、次年度の3校については、地域の方にできるだけ協力いただきたいと思っています。地域の方が運営していただけると、地域の方の掘り起こしもできますし、学校側も保護者の方も安心してお任せすることができると思います。

#### <守上委員>

今、単発的にコミスクでもこういったことをしておりますが、全部のイベントに参加してくる子どももいますが、1つのイベントに特化して参加してくる子どももいます。

キッズスクエアのイベントを見て「参加したい」と思っても、まだ登録できていない場合は、間に合うことができるのでしょうか。

#### <事務局：上田>

基本的に登録が完了するまで一週間お時間をいただいております。申請があつて、一週間以内に参加カードをお配りしております。

今の時期ですと、すぐにお渡しできることは可能ですが、当初の時期だと、50名～100名の方が来られることがあったので、一週間お時間をいただき、ご用意できてから学級で先生からお配りしていただいております。

芦屋の方に関しては、子どもが急に「参加したい」と言っても困らないように比較的早めに登録しておこうと思ってくださる方が多いので、今のところ、イベントに間に合わなかったということで問題があったことは聞いておりません。

現在820名ほど登録されております。

#### <中田委員長>

お話を聞かれてPTAの方から何かございませんか。

#### <平井委員>

私の子どもは5年生と3年生で宮川小学校に通っているのですが、お話を聞かせてもらって、ぜひ、キッズスクエアに参加させたいと思いました。

#### <中田委員長>

学年的にはまんべんなく登録されているのでしょうか。

#### <事務局：上田>

登録の割合はおおむね低学年が7割・高学年が3割程度です。参加者も低学年が圧倒的に多いです。

スナッグゴルフについては、当初4年生以上、現在は3年生以上の方にしてもらっています。

高学年の子どもが「キッズスクエアは小さな子がいる場所」とイメージし、それが広まってしまうと困りますので、高学年の子どもの好奇心をくすぐるようなプログラムも取り入れていきたいと思っています。

住宅事情もあり、最近は学校終了後自宅で遊ぶ等お約束するのが難しくなっているため、キッズスクエアに集まって遊んでもらってもいいですし、芦屋では公園で球技等もできないので、球技の種類によってはできる学校とできない学校はありますが、キッズスクエアで野球やサッカーをするといった使い方をしてもらえれば有り難いと思っています。

<中上委員>

キッズスクエアがはじまり半年程度が過ぎたと思いますが、下校時の見守りの観点から、例えば、PTAがあゆみ橋付近に立つなどといった防犯の変化などはないのでしょうか。

<金本副委員長>

あまり変化はないです。留守家庭は、時々16時55分に愛護が見守りに行きます。30人くらいの子供たちがあゆみ橋を渡って帰ります。キッズスクエアに関してはあゆみ橋の途中や正門まで保護者の方が迎えにこられます。お母様たちは子どもが一人や二人で帰ってこられるのは心配されています。

<事務局：上田>

キッズスクエアの終了時間は17時ですが、帰る時間は子どもによって異なります。いつでも退出できることになっていますので、17時まで残られている方は非常に少ないです。残っている子どもたちも帰る方向が様々で、潮見小学校は16時30分以後お迎えの方が多いです。青少年育成課としても、帰宅等を万全に指導しているわけでありませんので、子どもの帰りが心配な保護者の方は積極的にお迎えをしていただけるのはとても有り難いです。

<金本副委員長>

門はあけっぱなしにしていますか。

<事務局：上田>

門は基本的に閉まっています。

学校側で開けていたら、開けたままになっていることもあるかもしれませんが、留守家庭児童会が17時に閉められるので、キッズスクエアはその時間までに帰るようにしていて、キッズスクエアでの門の開け閉めは基本的にしておりません。

<金本副委員長>

子どもが勝手に大きな門を開けて帰る場合もあるのでしょうか。

<事務局：上田>

基本的に17時までは、どこかの門が開いています。



<成田委員>

門は閉まっていますが，当然鍵はあいています。

<事務局：上田>

山手小学校の場合は，西門があり，子どもの力で開けることができるので，キッズスクエアでは，その門をメインにしています。

問題が出てくるのは夏休み等で閉まっている門がありますので，保護者の方に開いている門をお知らせしております。

<金本副委員長>

一年生の子どもが15時に下校して，そのまま17時まで開けっ放しにしているのか，いったん閉めているのかは確認できていないのですが，最近，門の開けっ放しが多いという話をしています。

<事務局：上田>

夏休みは門を使用しますが，普段の日は基本的に授業が終わってから参加し，いったん家に帰ってから来ることがほとんどありませんので，門の開け閉めでの問題はないように思います。学校に自転車に乗ってくることは許可されていませんが，乗ってきてる子をこのあいだ見かけました。

<金本副委員長>

それは，よく見かけます。キッズスクエアに登録していない子がキッズスクエアに登録している子と帰ってきている時もあります。まぎれることができるのでしょうか。

<事務局：上田>

唯一，キッズスクエアが学校に貢献していることがあるとするならば，校庭において帰りまでキッズスクエアに登録していない子もみているということです。

キッズスクエアは校庭もみっていますが，全権を担っているわけではありません。

キッズスクエアに登録している子，学校の先生の許可を得て遊んでいる子，外から入ってきている幼児や中学生もいらっしやう，キッズスクエアに登録していないすべての子を閉め出すわけにはいきません。

6ヶ月経ち，キッズスクエアに登録していない子を指導してはいますが，どのルールがよいのかは，学校や地域の方とご相談しながら進めていこうと思っています。

<金本副委員長>

夏休みはキッズスクエアを自転車で行かせてほしいと多くの声を聞きました。

<事務局：上田>

キッズスクエアだけ特有のルールはできないと考えています。夏休みに自転車を許可してしまうと，2学期にも影響してくると思います。

キッズスクエアのせいでルールが乱れてしまうと，学校側にも申し訳ないので，持ち

物に関しても、学校と同じルールにしておかないと学校との整合性が保てなくなります。  
ご不便をおかけするとは思いますが、これからも学校と同じルールでキッズスクエアを運営していきたいと思っています。

<中上委員>

授業が終わって、再度、自転車で学校に来るのは許可されていないのでしょうか。

<事務局：上田>

基本的に学校に自転車で来るのはいけないことになっています。

<金本副委員長>

コミスクは自転車を許可しているのでしょうか。

コミスクはほとんど自転車で来られていると思います。

<事務局：上田>

堅苦しいかもしれませんが、キッズスクエアはコミスクのルールではなく、学校のルールに沿って運営しているので、ご理解いただければと思います。

<佐々木委員>

先ほど、キッズスクエアに登録していない子が参加していたとしても、一緒に面倒をみるとおっしゃっていました。

怪我をしている子がいた場合、ほったらかしにすることができないというのもわかります。学校側も、怪我をしている子が保健室に来れば、対応すると思います。

「キッズスクエアに登録したら？」という宣伝はされているのでしょうか。

<事務局：上田>

登録していただけると、保険も加入することができるので、もちろん宣伝はしています。

<佐々木委員>

登録せずに一緒に遊んでいる子もキッズスクエアに取り込んでいきたいですね。

<事務局：上田>

今、厳密にしようとしている日付と印鑑の問題につきましても、子どもたちに対して今後指導していくのであれば、スタッフの方に保護者あての文書を手渡してもらうなどこちら側のシステムを改善していきたいと思っています。

<中田委員長>

キッズスクエアに来ている子どもにマネージャーがお手紙を渡したい時、費用はどこから出るのでしょうか。

<事務局：上田>

キッズスクエアの運営費は青少年育成課です。UNOが古くなり、スタッフの方がご厚意で持ってきて下さったことがあるのですが、基本的にスタッフの方が負担することはないようにしたいと思っています。キッズスクエアはFAXもないので、連絡業務が難しいです。キッズスクエアは携帯電話を当日マネージャーに各一台お渡ししているのですが、基本的な連絡業務は携帯で行っています。時間外に連絡事項があれば、留守番電話に入れてもらっています。

<金本副委員長>

キッズスクエアを広めていきたいですか。少人数のままの方がよいでしょうか。

<事務局：上田>

広めていきたいですが、許容範囲があるので、毎日100名の方が参加されると、校庭で遊ぶには問題ありませんが、雨の場合など室内だけになってしまうと許容範囲を超えてしまいます。

低学年であれば、通常30名、多くてギリギリ50名ぐらいが安定した運営状態だと思います。あまり、宣伝しすぎて、行列になってしまうと安定な運営は難しくなりますが、今年度・来年度で多くの方に登録してもらうことにより、キッズスクエアの需要が高まると、学校側が応援してくださり、今より広い場所を提供して下さるかもしれません。

また、コミスク活動との兼ね合いもありますし、キッズスクエアのスタッフは3人でするので室内に2箇所の部屋となってしまうと、外に1人必要なので見守りも難しくなってきます。学校の教室以外で広い場所を考えると体育館や図書館といった部屋もありますが、スタッフがその部屋を使いこなせるのかといった問題もありますので、学校には1階や2階といったできるだけ安全な場所でキッズスクエアを運営させてもらえたら有り難いと思っています。

<中田委員長>

何か他にご質問等はございませんでしょうか。

私も、キッズスクエアを見学したところ、参加している子どもはとても楽しそうに遊んでいました。プログラムによっては、参加人数が少なかったりすると、講師の方が残念そうにされている姿もあつたりするので、その辺が難しいなと思います。準備する方としてもお金がかからなくて、人数が増えても減っても平気なプログラムを考えるのは、とても大変だと思うので、成田委員をはじめ地域で運営されている山手小学校には感心します。子どもたちの遊び場が少なかったりしているので、1人でも2人でも多くの子どもが遊べる環境をこれからもよろしく願いいたします。

議題ウのその他ですが、運営委員の皆さまからこの場でお伝えすることはございませんか。

<金本副委員長>

潮見小学校は5社くらい民間の放課後子ども教室が学校へ車で子どもたちを迎えにき

ているのですが、車がカーブのところで止まっているので危ないと思います。

見かけたら注意するのですが、子どもとの待ち合わせ場所が決まっているようで、どこがやりとりをしているのでしょうか。

<荒谷委員>

学校です。

<金本副委員長>

5社は多いように思いますが、子どもさんは1社に2・3人ずつ車に乗っていかれますね。

<事務局：上田>

神戸の業者さんもいらっしゃいます。青少年育成課でも、できる限り把握はしていきたいと思っていますが、市外まで把握をしてくのはなかなか難しいです。ルールも特にないので、お迎えの車の件が問題になるようであれば、ルール等も必要になってくるのかもしれない。

<平井委員>

キッズスクエアはどの小学校も学校からいったん帰らずに皆さん参加されているのでしょうか。

<事務局：上田>

学校から直接でも、いったん家に帰ってからでも、どちらでも参加可能ですが、山手小学校や潮見小学校においては、居住場所から離れていることもあり、いったん帰ってから参加するのは、大変だと思います。山手小学校については、高低差もありますので、家に帰ってから参加する子どもたちはほとんどいません。

<平井委員>

うちの子どもは、小学校から2分ほどで家に帰れます。

遊ぶ時間も長くなるので、学校から直接行ってもらえると助かる時もありますし、いったん家に帰ってから参加したい時もあると思うので、日によって選択することは可能でしょうか。

<事務局：上田>

もちろん、選択できます。

キッズスクエアは保護者の承認さえあれば参加できます。

<中田委員長>

他に何かございませんか。

ご質問等ないようでしたら、次回の日程を事務局から提案お願いいたします。

<事務局：宇田>

次回は3学期に開催したいと考えておりますので、2月25日（木）15時から17時でお願いします。

<金本副委員長>

閉会のご挨拶